

どんぐり



滝上リハビリセンター
短歌クラブ

はじめに

短歌クラブが発足して七年。会員で話し合って、初めての歌集を発行する事が決まり大変喜んでおります。

少ない人数ですが、これからもセンターの皆さんと明るく、楽しく、笑顔で短歌クラブを続けていきたいと思っています。

これからも、清水美知江先生のご指導、ご協力よろしく願います。

五十嵐 武吉



野うさぎ

五十嵐 武吉

- ・ 野うさぎの親子なりしか草原に風よろこびて遊ぶさま見ゆ
- ・ 桜咲き庭の芝生も青々と可愛いうさぎ今日も窓辺に
- ・ 帰省どきに稲田見るのも懐かしく田一面にトンボとびをり
- ・ 久々に盆の帰省よ里の家お墓参りに皆と手を合わす
- ・ 亡き兄の早七年の秋むかへ笑顔の写真に日々手を合わす

・秋深く日毎寒さも身に染みる車椅子漕ぎりハビリに励む
・霜半ばシヨツピングにと紋別へ買い物などを

日記に書きおく

・昼食に松茸ご飯食膳に甘き香りは食堂に広がる
・夕食の寄せ鍋会に野菜などふっくら煮えて体ぬくもる
・野も山の見渡す限り春近し木立の根もと日毎解けゆく

春の香

小林 ヨシエ

- ・雪融けて外に散歩行ける日の早く来いよと窓より眺めて
- ・雪解けの水溜り寄りて小さき鳥忙しく水飲む声は聞こえず
- ・今朝の雨積み上げていた雪の山日の輝る中に小さくなりぬ
- ・幼き頃雪の野原に大の字に凹んだ型に大笑ひして
- ・初物の焼いた鯁は久し振り美味しく食べて幸せと思う

・焼き鰯山葵つけて食べる時鼻につんとくる春のおとずれ

・食卓に青々とした露の臺元氣に今日もおいしくいただく

・太陽が昇りて背中暖かく日向ぼっこ出来る喜び

・蘭の花窓辺に咲いて毎日を楽しく眺めるダイルームの一時

・カサカサの枯葉が風に吹かれ落つ寒々と庭にきが立ち並ぶ

友の顔

岡村 シズ子

・春近く明るい光に少しつづ雪は消えゆく花のまたるる
・ダイルム明かり灯りて朗らかに

健やかに迎えへる新しき年を

・おめでとう明るい希望祈りつつ今日の生活明日に望みを
・元気なる友の便りの懐かしく冬が来たよと想い出くれる
・夏休み帽子かぶりてセミ取りを友と語らう虫取り忘れて

・暑さどこへ朝から冷えびえ今日の気温

秋に入って寒さ忍ばれる

・こんにちは笑顔の面々クラスメイト

四人の瞳に握手と別れ

・交流会心淋し人々よ楽しく終えた後のひそけさ

・雪解けに思い出したり友の顔走り廻って黒ん坊のように

・笑顔なる友と遊んだ夢を見る楽しき昔今いずこかな

園の庭

池森 澄子

- ・葉が落ちて枯れた様に見える木の並んだ山も冬が近づくと
- ・若い時一人で帯を結んだのに手足の病んで今は結べず
- ・花好きの母はいつも切り花を絶やさず飾りて

明るい茶の間

- ・園の庭タンポポ綺麗に咲いている沢山咲いて楽しい朝に
- ・園の庭樹も青々と葉をつけて新緑の季節の楽しい朝を

・園の庭蓮華つつじの真っ盛り辺り一面緑に包まる

・リハビリに行く時見える花々の土は乾いて水欲しそうに

・私の乗る車体重おもいからなかなか走るの大変だろうと

・ゲームにて相撲の星取り四等に

猫のぬいぐるみ賞品として

・温かい陽にだんだん解ける雪の山

水流れゆく春はもうすぐ

幼き日の記憶

長島 令子

- ・ 幼きより私の着たいワンピース夢のようなる衣装を鏡に
- ・ 幼き日指で障子に穴を開け叱られた記憶今も忘れず
- ・ 片足の我励ます姉の作文幼き心に感動の日を
- ・ 果物の制限されし病む身には好物の西瓜の幼き思い出
- ・ 幼き日食べた西瓜の記憶あり食制限のない今を喜ぶ

・私の名前は「おおかわれいこ」だと両親に

教えてもらった幼い日のこと

・漢字にて「大川令子」と教えられた

父母の事忘れられない

明るい色

高橋 昌子

・ 鈴江さん結んだ髪が可愛いね

リボンが似合う介護士さんよ

・ 智栄子さん短い髪じゃ結べない

オシャレ染めして可愛いね

・ クリスマス明るい色の服をきて皆集まり楽しい夜を

・ 昌子です朝から電話喜ばれ

楽しい話しをいっぱいしました

・ 私の服いつも明るいい色が好き皆もいつも明るいい笑顔

あとがき

枯葉が舞散りいよいよ雪の季節が近づいて来ました。ハピ
ニスにて一緒に短歌を詠みたいとの話しがまとまり七年にな
りました。

この度の十月十五日の例会の席で「皆で頑張ってきたのだ
から記念の歌集を出したいの」という話が出て、すぐに決ま
ったとの事、私も嬉しい気持ちです。ささやかな歌集であつ
ても、仲良く頑張ってきた証です。楽しく来月の詠題、日程

等を皆で決めて私は元気に帰ってきます。

これからも四季の景色や園内での楽しい事等、五七五七七と詠んでいきましょう。私も雨にも雪にも負けず、一緒に勉強がしたくて通っています。

・車椅子の音軋ませつつ集い来る

共に詠まんとダイルームへと

平成三十四年十月二十四日

清水 美知江



平成二十四年十一月発行

発行所

滝上リハビリセンター

短歌クラブ

編集協力

短歌クラブ一同

編集員

斉藤 カヨ子

五十嵐 響太